

小松空港環境計画



平成23年4月

小松空港利用者利便向上協議会

エコエアポート推進部会

小松空港環境計画 目次

はじめに

第1章 基本方針	1
(1) 環境計画を策定する背景と目的	1
(2) 小松空港の現況	1
(3) 環境目標の設定の考え方	4
(4) 実施方針の考え方	4
(5) 対象範囲	4
第2章 実施体制	5
(1) エコエアポート推進部会の構成	5
(2) エコエアポート推進部会の主な活動内容	5
第3章 実施計画	6
(1) 大気（エネルギー含む）	6
(2) 騒音・振動	6
(3) 水	7
(4) 土壌	7
(5) 廃棄物	8
(6) 自然環境	9

はじめに

環境問題は、21世紀の人類がその叡智を結集して対応すべき最大の課題の一つであり、その対象も大気汚染、水質汚濁等の地域的な問題から、温室効果ガス、気候変動問題等地球規模での問題と拡大しています。

国土交通政策の重点政策の一つで「地球環境に対応したくらしづくり」では、地球温暖化対策の強化、循環社会の構築の推進等の取組を強化しています。

一方、空港における環境対策は、航空機騒音に係る対策を中心として、空港周辺の民家等の移転補償を進めるとともに、住宅、学校、病院等の防音工事や、緩衝緑地等の整備を推進してきました。これら継続的な対策の結果、現在空港の機能は維持され、旅客等の利便性も確保されております。

しかしながら空港と環境との関わりは、単に航空機騒音のみでなく大気汚染や騒音・震動、空港からの排水等空港の運用に伴い空港周辺の環境に影響を与える様々の要因があると考えられます。

今般、空港関係事業者のご理解とご協力をいただき、大気汚染や騒音・震動、CO₂の削減、リサイクル等の環境要素ごとの目標達成に向けた「小松空港環境計画」をとりまとめたところです。空港関係者のこのような取組が、空港周辺地域の環境に対しよりよい影響を与え、小松空港が今後とも地域と共存し、発展することを期待するものであります。

平成23年4月

エコエアポート推進部会 部会長

(国土交通省大阪航空局小松空港事務所長)

白 勢 成 一

第1章 基本方針

(1)環境計画を策定する背景と目的

1)環境に対する背景

近年、CO2削減対策を含む循環型社会の実現等、地球環境問題への取組がもとめられる中、政府レベルではCO2削減について目標を定め取組を強めている。併せて、行政、企業、一般家庭等様々な分野においても、それぞれの分野で環境に対してできることを少しでも進めることが望まれている。空港は、その運用を行う中で、エネルギー消費に伴う大気汚染物質等の発生や、廃棄物の発生、水の消費・排水の発生等様々な分野での空港周辺の地域環境及び地球環境に少なからず影響を与えており、具体的な対策が望まれている。

一方、これまでの空港周辺環境対策により、航空機騒音による障害は着実に防止・軽減されてきたが、航空機需要の増大とともに空港周辺環境対策も一層の充実が求められている。

また、交通政策審議会航空分科会空港整備部会の答申においても、今後の空港環境対策のあり方として、空港の整備・管理運営に伴う環境負荷を低減するための施策について一体的に推進することが必要であるとされている。

2)空港環境計画策定の目的

小松空港においては、空港ターミナルビル会社、航空会社、公的機関などそれぞれの立場で環境に対する活動に取り組んできている。

今後、これらの活動をさらに実行あるものにし、かつ、効率よく実施するためには、関係者が一体となって活動を推進するための共通の目標を持つことが重要である。

このため、環境要素ごとの目標、具体的施策、実施スケジュール等から構成される共通目標としての「空港環境計画」を策定する必要がある。

(2)小松空港の現況

1)小松空港の概要

小松空港は、金沢市の南西約30kmに位置し、白山等の山地を望む日本海沿岸の平野部に設置されている。

民航ターミナル地区は空港の北東部にあり、周辺は田園に囲まれ、南東は白山等の山地を望み、北は1kmほどで松林の続く海岸にでる風光明媚な地に位置している。

空港施設の概要は下表のとおりである。

名 称	小松飛行場
種 別	その他飛行場
設置管理者	防衛大臣
位 置	石川県小松市
標 点 位 置	N36° 23' 38"、E136° 24' 27"
標 高	6.7m
総 面 積	4,397,259m ²
基 本 施 設	
イ)着陸帯	3,300m × 450m 等級A級
ロ)滑走路	2,700m × 45m
ハ)誘導路	2,700m × 23m
ニ)エプロン	49,240m ²
エプロンバース	大型機用 : 6 バース 小型機用 : 2 バース 計 : 8 バース
運 用 時 間	07:30～21:30(14時間)

国内線は東京、新千歳、仙台、成田、福岡、那覇の6路線、国際線はソウル、上海、台北の3路線、この他に国際貨物路線としてルクセンブルグの1路線が就航している。

2)環境面に対する影響

[大気]

大気質については、石川県等が県内33カ所(環境大気測定局27カ所、自動車排出ガス測定局6カ所)に大気測定局を設置して、大気の状態を常時監視している。

小松空港が位置する小松市には、2つの大気汚染測定局が設置されている。空港周辺は農地や林が多く、自然環境は良好であり、大気環境については問題ないものと考えられる。



[騒音]

小松空港の航空機騒音については、金沢防衛施設事務所、石川県、小松市他4市町が毎年調査を実施している。

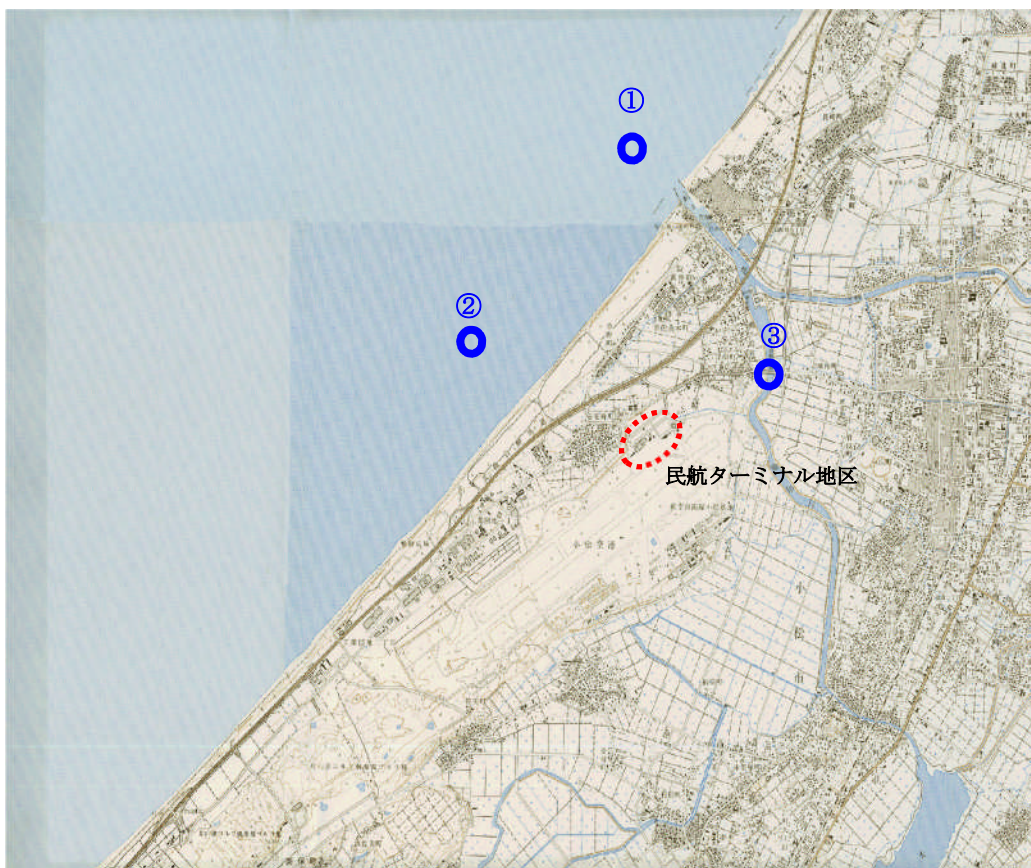
航空機騒音については、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づいて周辺対策等を実施している。

[水質]

小松空港は、小松市の公共下水道の整備範囲に入っておらず、生活排水は浄化槽で処理した後、雨水排水路を経て、前川等の河川を経て海域に排出されている。将来においても公共下水道が整備される計画はない。

小松空港の周辺の海域及び河川の水質については、石川県が毎年調査を行っている。

海域の水質は環境基準を達成している。前川の水質については環境基準を超えている。これは生活排水の流入のためであり、これを改善するため小松市では前川流域の公共下水道整備を進めている。



(3)環境目標の設定の考え方

小松空港におけるターミナルビルや庁舎などの主要な建物は、築後20年以上経っており、他の建物についても特に省エネルギー手法は採用されていない。

運用面においては、半数近くの事業者が不要時消灯を行っている。また、約1/5の事業者が冷暖房温度の省エネモード設定やこまめなON/OFFを行っている。節水キャンペーンに取り組んでいる事業者はない。ゴミ発生量の削減に取り組んでいる事業者は少ない。備品のグリーン調達を行っている事業者は少ない。

今後の更なる取組としては、大きく以下のようなことが挙げられるが、コストをかけた施設改修によって省エネ・省資源を進めるというよりも、現在のように日々の運用の中で従業員や旅客の理解を得ながら無駄を省いたり、無理のない範囲でエコエアポートを実現していく地道な取組姿勢が必要である。

- ・ディーゼル車の削減、エコカーの導入
- ・建物施設における設備機器の更新時あるいは立て替えの際の省エネルギー機器の採用。

(4)実施方針の考え方

1)目標年度

- ・10年後の平成33年を目標年度とする。ただし、空港を取りまく環境の変化や施策の技術動向を勘案し、必要に応じて見直すものとする

2)施策の実施スケジュール

- ・策定された空港環境計画の施策の実施にあたっては、国の空港整備計画や施策の技術動向を勘案し、緊急性、早期実施の可能性、他の施策との連携等を考慮の上実施していくものとする。

3)評価及び公表

- ・専門部会では、毎年、各事業者から「空港環境計画」に基づく環境施策の実施状況報告を受け、「実施状況報告書」として公表する。
- ・専門部会は、目標年度の次年度に実施完了後の成果について最終目標に対する評価を「評価報告書」として公表する。

(5)対象範囲

空港内すべての活動(人、航空機、車等)を対象とする。ただし、建設工事は一過性のものであるため対象としない。しかしながら、工事実施に当たっては、環境に対する影響が最小限になるよう配慮する必要がある。

第2章 実施体制

空港環境計画の実施にあたっては、関係者の理解と協力に基づく総合的な環境問題への取組が必要なことから、小松空港の管理者が中心となり、小松空港利用者利便向上協議会の専門部会であるエコエアポート推進部会が主体となる。

(1) エコエアポート推進部会の構成員

- ・大阪航空局小松空港事務所
- ・北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所
- ・石川県航空消防防災グループ
- ・北陸エアターミナルビル(株)
- ・北陸国際航空貨物ターミナル(株)
- ・日本航空(株)
- ・全日本空輸(株)
- ・北海道国際航空(株)
- ・中日本航空(株)
- ・(株)東亜メンテナンス
- ・(株)北鉄航空
- ・(財)空港環境整備協会

(2) エコエアポート推進部会の主な活動内容

本専門部会の主な活動内容は以下のとおりである。

① 空港環境計画の策定

空港の環境現況を調査し、優先順位を考慮して空港環境計画を策定する。

② 施策の実施

空港環境計画に基づき関係する各事業者が各々実施する。

③ 達成状況の評価

空港環境計画の各施策の達成状況は、推進部会で評価する。

④ 教育・啓発活動

空港環境計画の実施にあたって、関係者に対し必要となる事項について継続的な教育及び啓蒙活動を行うとともに、旅客に対してもゴミ等の削減キャンペーンを行う。

第3章 実施計画

(1)大気(エネルギー含む)

1)現状認識

- ・空港全体のエネルギー消費量は約61,878GJ/年であり、CO₂排出量は約2,671トン/年である。
- ・消費量の内訳は電力が約87%と大部分を占め、軽油が約8%などとなっている。
- ・施設別では旅客・貨物ターミナルが約78%、公的機関が約13%、などとなっている。

2)現状の対策状況

①施設

- ・ターミナルビルや庁舎などの主要な建物は、築後20年以上経っており、他の建物についても、特に省エネルギー手法は採用されていない。
- ・運用面においては、半数近くの事業者が不要時消灯を行っている。

②車両

- ・車両に関しては、エコカー導入は6台である。アイドリングストップを行っている事業者は少ない。

3)具体的な施策

大気汚染物質の排出量低減を計画的に実行するためには、化石燃料をクリーンな燃料へ転換することが必要である。また、エネルギー消費量を削減し、CO₂排出量の低減に努めることが極めて重要であり、具体的には次の施策を実施する。

- ・技術動向を勘案し、エコカー導入を推進する。
- ・各施設の照明や空調設備等の省エネタイプ、効率化を推進する。
- ・アイドリングストップ運動を推進する。(季節による)

4)環境目標

【10年後の目標:空港から排出されるCO₂を着実に削減する。】

(2)騒音・振動

1)現状認識

航空機騒音については、「防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律」に基づいて周辺対策等を実施しているところであり、民間航空としても引き続き金沢防衛施設事務所、石川県等の発表データ等に注視していく。

2)現状の対策状況

金沢防衛施設事務所、石川県等の発表データ等を注視している。

3) 具体的な施策

空港で発生する騒音を悪化させないように努力することとし、GSE等の空港内の車両についても低騒音型車両の導入を推進する。

4) 環境目標

【10年後の目標: 空港内の騒音・振動を低減するよう努め、現状より騒音が悪化することを防ぐ。】

(3) 水

1) 現状認識

- ・空港における上水使用量は、71,410m³/年であり、うち98%がターミナルビル使用分である。
- ・上水は小松市の上水道より空港内の各施設が個別に受水している。
- ・公共下水道は整備されておらず、各施設で発生した生活排水は浄化槽で処理した後、雨水配水管へ排出している。
- ・雨水の使用は特に行われていない。
- ・特に雨水を汚染するような物質の混入はないが、冬期においては航空機体への防除雪氷剤の散布が行われているため、雨水排水への混入はありえる。

2) 現状の対策状況

冬期には、ターミナル地域の道路駐車場の融雪用水として地下水を使用している。

3) 具体的な施策

空港内での水使用量の削減を図ることとし、排水についても環境への影響をより低減するよう努める。

4) 環境目標

【10年後の目標: 空港内で使用される水の使用量を着実に削減する。】

(4) 土壌

1) 現状認識

- ・各施設からの排水や廃棄物は良好に管理されており、土壌に有害物質が浸透するようなことはない。
- ・冬期においては、航空機の安全運航のため防除雪氷剤の散布が行われているが、土壌を汚染するようなものではない。

2)現状の対策状況

各施設からの排水や廃棄物は良好に管理されており、有害物質が土壌に浸透するようなことはないものと考えられる。

3)具体的な施策

各施設からの排水や廃棄物の管理に関して、引き続き実施していく。

4)環境目標

【10年後の目標:可能な限り土壌への影響を小さくすることに努め、最低でも現状維持に努める。】

(5)廃棄物

1)現状認識

- ・小松空港における廃棄物の量は648トン/年である。
- ・事業者別では、ターミナルビル67%、公的機関11%、その他22%となっている。
- ・ゴミの種別では、一般廃棄物62%、産業廃棄物38%である。

2)現状の対策状況

- ・小松空港においては、分別回収が行われており、資源ゴミとしてリサイクルに回る率は全体の11%である。
- ・ゴミ発生量の削減に取り組んでいる事業者は全体の1/5である。
- ・備品のグリーン調達を行っている事業者は全体の1/5である。

3)具体的な施策

- ・ゴミ発生量の削減を促進する。
- ・グリーン調達の促進

4)環境目標

【10年後の目標:一般廃棄物を着実に削減し、また、総合的なリサイクル率を向上させる。】

(6)自然環境

1)現況認識

小松空港は、日本海沿岸の平野部にあり、周辺は田園に囲まれている。また、白山等の山地を望み、1kmほどで松林の続く海岸があるなど、環境に恵まれた地に位置している。

空港内における自然環境に対する考え方は、既存の自然環境を可能な限り保全すること

及び緑化の推進による環境改善を目指すことである。また、空港の周辺については、既存の環境に負荷をできるだけかけないことである。

2)現状の対策状況

空港周辺は林も多く、道路周りも植栽がなされ緑化が進んでいる。

3)具体的な施策

- ・既存の自然環境を可能な限り保全する。
- ・林や植栽に対する松くい虫対策を実施する。

4)環境目標

【10年後の目標:既存の自然環境を可能な限り保全し、更なる緑化の推進を図る。】

以 上

※本計画の策定にあたっては、平成18年1月に空港内事業者等を対象に、国土交通省大阪航空局及び(財)港湾空港建設技術サービスセンターが調査を行い、同年3月に取りまとめられた「空港環境目標基礎調査報告書(小松空港)」を基に作成しております。